

定期訪韓団報告

全港湾の中村猛氏らを中心に二〇年以上、日韓労働者の交流と連帯の運動が続けられてきました。

昨年、そのメイン行事である十一月訪韓団に加えて頂きました。九九年初参加以来です。仕事の関係もあり、途中参加・途中離脱の勝手をさせてもらいましたが、多くの交流と学びがあり、観光までさせて頂きました。せっかく得た貴重な機会、ぜひ皆さんに伝え、感じてもらえるものがあればと、ペンをとりました。お付き合いいただければ幸いです。

南労会支部 O・H

アジアスワニー争議から

交流の始まりは、四国の繊維資本が韓国の全羅北道（全北）・益山（イクサン）に設立した「アジアスワニー」の工場をFAX一枚で閉鎖しようとしたことに対する女性労働者たちの争議でした。働いていた多くの女性たちは十代の夜間学生、劣悪な条件で酷使され続け、一九八九年四月ついに闘う労働組合を結成しました。その五ヶ月後の閉鎖通告！彼女たちは生存権と夜間学費の保障などを

掲げ、徹夜ろう城で工場

を守り、様々な闘いを展

開しながら、八九年十二

月社長との直接交渉を求

めて日本遠征闘争を決行。

九〇年三月に会社の合意

を勝ちとるまでの日本で

の闘いを高麗労連や全港

湾、その他多くの労働者

が支えました。そして争

議は通算二〇〇日間の闘

いで解決しました。

その年から、中村氏ら

は全北訪問と交流を開始、

翌年十一月には全国労働

者大会（ソウル）にも初

参加されたそうです。か

くて以降は毎年十一月に

訪韓団を編成、全北との

交流とソウルでの大会参

チヨンテイル精神継承！

全国労働者大会の正式

名称は「チヨン・テイル

精神継承！全国労働者大

会」。チヨン・テイル氏

は一九七〇年十一月十三

日ソウルの平和市場で身

体を蝕まれながら酷使さ

れる若い繊維労働者の境

遇に憤り自らの身体に火

を放って労働者の権利回

復を社会に訴えた二二歳

の青年です。「僕の死を

無駄にするな」と叫びな

がら……。韓国の労働者は

彼の精神を心に刻み、原

点としながら、軍事独裁

政権下において果敢に民

主労働組合運動を闘い、

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

民主労総の結成と合法化を勝ちとってきました。毎年、命日に近い日曜日、全国から数万人の労働者がソウルに結集し開催してきたのが全国労働者大会です。

デモは戦闘警察と実力で対峙して闘われました。

九人を守る六万組合員

順不同ですが、最大の焦点のひとつ―全国教職員労働組合(全教組)への弾圧との闘いを紹介します。十一月七日私たちは全北にある組合事務所(写真)を訪問し、全北支部の専従役員から直接話を聞かせて頂きました。組合の会館にも、旗にも、ビラにも必ずついているのが、かわいらしい子どもの顔のロゴマーク、そこには「真の教育」という文字が書かれています。これが組合の目的です。

組織率は約三割ですが政党に匹敵する社会的影響力を持っていると。

この間、パククネは全教組を非合法化するため卑劣な攻撃をかけてきました。雇用者だけが組合員という法を盾に、九月二十三日までに全国六万人の組合から九人の被解雇者を排除せよ、従わなければ「法外労組」にすると迫ったのです。「法外労組」とは全協定の破棄、労働組合としての全ての権利の剥奪を意味します。指導部は屈せず闘う姿勢でしたが、組合員はいったいどのような選択をするのか、とても心配でした。しかし喧々諤々

の議論の末、行なわれた一票投票の結果はなんと七割が「法外労組になっても被解雇者排除を拒否」

左)カラフルな横断幕が掲げられた全教組全北支部建物下)全教組の旗。民族・民主・人間化教育の文字。



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!

という力強い選択。「我々の組合員が多くの感動を与えた。市民はこの問題に対し今までよりも多くの共感と関心を持った」と語られました。この過程で、若い組合員も三倍に増えたとのこと。若い先生が遠くから土曜日に、「今まで入らずにすみませんでした」と手紙をそえて組合加盟書を持参したエピソードも紹介されました。役員の方は何回も何回も、九人を守る選択をした組合員を讃えておられました。

「法外労組」通告

この組合決定に対し、

十月二十三日、政府は「法外労組」を通告。全教組は直ちに仮処分申請（組合勝利）、本裁判、憲法裁判所へも提訴。

全国で八〇〇団体、全北でも四五団体が共同闘争本部をつくって反撃にたちました。パククネ政権の歴史歪曲、労働弾圧が全教組へ、そして公務員労組へと集中している、対国民宣伝戦も含めあらゆる闘いをもって必ず勝利すると、確信に満ちて語られました。

韓国で暮らす通訳の鈴木さん（安全センターと連携した活動をされている）の話では、国民の関心事が高い問題は教育と

徴兵制。韓国は日本以上の受験国家ですが、それに対する批判や疑問もある—そのような土壌が全教組に対する共感と反弾圧の共同闘争を生み出しているのかなと思います。

（次号につづく）



話を下さった三人の専従→支部長、「真の教育」担当、政策室長。元高校と小学校の先生。右端はヘテラン通訳・鈴木さん。

南大阪平和人権連帯会議 団結旗開き

◇日時：2014年1月16日(木) 18：30より

◇場所：田中機械ホール

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！